



2025 明治安田 J3 リーグ 第 17 節
6/21 (土) 19:00 kick off
@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

today's guest

テゲバジャーロ宮崎

順位表 6/15現在 基本 16試合消化時点

勝点、得失点差、得点、失点、
岐阜戦の戦績（岐阜から見て）

1	FC大阪	35p	+13	24	11	A△
2	栃木C	34p	+11	23	12	A●
3	宮崎	28p	+7	22	15	
4	八戸	28p	+6	17	11	H●
5	鹿児島	27p	+10	29	19	A●
6	北九州	27p	+6	15	9	H○
7	奈良	23p	+1	19	18	A△
8	福島	23p	-4	29	33	A●
9	松本	22p	-1	18	19	H△
10	栃木SC	20p	-1	10	11	H●
11	群馬	19p	-2	24	26	A△
12	高知	18p	-3	25	28	H△
13	金沢	18p	-4	18	22	H●
14	岐阜	17p	-5	19	24	---
15	讃岐	17p	-5	15	20	H○
16	鳥取	16p	-5	11	16	A●
17	相模原	16p	-7	16	23	
18	長野	16p	-7	15	22	A○
19	沼津	14p	-2	13	15	H○
20	琉球	13p	-8	11	19	

次回HomeGame

第19節 vs.SC相模原

7/6 (日) 19:00

@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

大酒場 ホームラン

名鉄岐阜駅前（三菱UFJ銀行隣り）
年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

「いらっしゃいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。
休:月曜日

今日もここから
串かつで一杯
煮込み珍道中
14:30 ~ 22:00 (L.O. 21:00)
※売り切れ次第、終了です
<定休日:日曜・祝日>
TEL. 058-252-1580

忠節橋
通り

JR 岐阜駅
北口より
北西方面へ
徒歩約 10 分

★

アミカ

ドミ

イン

JR

岐阜駅

通算対戦成績 全 8 試合 (J3: 8 試合)
岐阜3勝 / 宮崎4勝 / 1分け Jリーグ岐阜ホーム戦: 1勝1分2敗

直近の対戦結果 2024/07/06 宮崎 0-1 岐阜 得点者: 田口裕也
J3 - 20節 @ いちご

ここ
3 試合の
公式戦の
結果

岐阜

2025/06/14 J3 - 16節 @ 長野 U
長野 1-2 岐阜

2025/06/11 天皇杯 @ レモン S
湘南 2-0 岐阜

2025/06/07 J3 - 15節 @ 白波スタ
鹿児島 3-2 岐阜

宮崎

2025/06/14 J3 - 16節 @ いちご
宮崎 0-0 FC大阪

2025/06/07 J3 - 15節 @ いちご
宮崎 4-2 相模原

2025/05/31 J3 - 14節 @ ミクスタ
北九州 1-1 宮崎

● J3 リーグ 2025 シーズンも既に 3 分の 1 を経過したが、これまでの J3 のシーズンで、最もチームが低迷して苦しんでいると思われる FC 岐阜。6/1 (日) 第 14 節・ホーム高知戦は、前半 19 分にセットプレーから #3 野澤陸のヘッドで岐阜が先制するが、前半の内に守備を崩されて同点にされる。後半は両チームとも決定機を決められず、1-1 の引き分けに終わった。続く 6/7 (土) 第 15 節・アウェイ鹿児島戦も、押されながら前半 35 分にセットプレーから #24 栗飯原尚平が押し込んで先制するが、前半 AT に追いつかれてしまう。後半も鹿児島ペースだったが耐え続けて、後半 18 分には #16 西谷亮のゴールで再びリードするが、鹿児島に 2 点を奪われて 2-3 で敗戦。そして中 3 日で迎えた天皇杯 2 回戦・6/11 (水) 湘南戦。岐阜は今季初の 3 バックで臨み、前半は J1 チームを相手にスコアレスで終える。しかし後半に選手交代を機に 2 失点し、0-2 で敗戦。そして、中 2 日での 3 連戦目は 6/14 (土) アウェイ長野戦。この試合もセットプレーの流れから、前半 2 分に #4 甲斐健太郎が押し込んで先制するが、追いつかれる。しかし、前半 34 分に #11 佐々木快のゴールで再びリードして前半を折り返す。後半は長野の攻勢に会い、何度も決定機を作られるが、GK #31 セランテスを中心にボールを跳ね返し続け、2-1 で勝利。岐阜は 1 ヶ月以上経ったリーグ戦での勝利、そして今季のアウェイ初勝利を掴み取った。

リーグ戦 3 試合の結果、FC 岐阜の順位は 16 位から 14 位に上昇。しかし下位を見ると、20 位・琉球から 11 位・群馬までの勝点差はわずかに 6。そして上位では、岐阜との勝点差 6 には 7 位・奈良がいる状況だ。首位・FC 大阪と 2 位・栃木 C の 2 チームは少し抜け出しており、第 2 集団で 6 位 (= プレーオフ出場圏) までの 4 チームが追う状況だが、それ以下のチームは大混戦になっていると言えるだろう。あと少しで 2025 シーズンも前半戦を終えて折り返しを迎える。この時期に下位に留まっているのは非常に不本意なことだし、この大混戦を抜けだしてプレーオフ圏内に迫る勢いをつけるため、今日の試合を連勝で飾って欲しいものだ。なお、6/1 (日) から 6/10 (火) の特別登録期間 (ウインドー) は終了したが、すぐ 7/7 (月) から 8/20 (水) までの第 2 ウインドーが開く。クラブの選手補強の手腕にも期待したい。

さて、今節の対戦相手は、テゲバジャーロ宮崎だ。昨季から大熊裕司氏が監督兼強化部長に就任し、育成型クラブを目指す方針が示されてスタッフと選手も大幅に刷新。リーグ前半戦には降格圏に沈むが、後半戦は巻き返して最終成績は 15 位。大熊監督 2 年目体制の今季は、第 5 節で栃木 C に敗れた以降、なんと 11 試合無敗を継続中のチームだ。戦績としては、5 勝 6 分・14 得点 9 失点だが、粘り強く勝点を積み重ね続けた結果、現在は 3 位に。30 代の選手がいなくてもあってもか、全員で最後まで走りつづけ、勢いに乗っているチームと言えるだろう。宮崎との通算対戦成績は、岐阜の 3 勝 1 分 4 敗・14 得点 12 失点。昨季のホーム戦、4/14 (日) 第 10 節では、前半だけで 2 失点。後半に PK で 1 点を返すに止まり、1-2 で敗戦。逆に 7/6 (土) 第 20 節アウェイ戦は、退場者を出しながらも後半の PK での 1 点を守り切り、1-0 で勝利。今節は、何としても今季初の連勝を達成したい。

宮崎で最も警戒すべき選手は、やはり大型 FW の #11 橋本啓吾だろう。第 8 節まで無得点だったが、第 9 節から 8 試合で 7 ゴールと量産し、リーグ得点ランク 3 位タイに躍り出ている。この 1 トップを自由にさせないことが、岐阜の守備陣には求められる。また、#47 奥村晃司は得点こそ 2 点だが、アシスト 5 はリーグ 1 位タイ。攻撃の起点となる選手を封じることが、岐阜の勝利にとって重要だ。

なんとかアウェイでの今季初勝利を掴み取った岐阜。この成果を、今後の勢いに繋げるためには連勝することが重要だ。そのためにも、このホームスタジアムの利を活かそう。僕ら FC 岐阜サポーターが、最後までチームの勝利を信じて、時には叱咤激励しながら、チャントや拍手で、選手たちを鼓舞することが、選手たちの力になる。そして今節も、試合終了の後には、選手たちと共に勝利の歓喜を分かち合い、万歳四喝そして "HYPER CHANT" を、このホームスタジアム・長良川に響き渡らせよう。(ささたく)

投稿募集 !! gidaidohri@gmail.com

【第14節】岐阜 1-1 高知

●今できるこれが精一杯のサッカーなのかなと思わざるを得なかった……。

試合の入りは悪くなかった。いつもより余裕を持ってプレーしてるようにすら見えた。そんな中での野澤陸の先制ゴール。練習で繰り返しやってきたと思われるデザインされたゴールであった。

だが先制された事で、高知も前がかりに。岐阜の右サイド、横山智也と文仁柱の間のスペースや文の背後などを繰り返し突いてくる。そしてそれが功を奏しての同点ゴール。

以後は高知の時間帯が長かったような。5バックで後ろをしつかり固めて、ボールを持てば右サイドの上月翔聖を中心に攻め立ててきた。足も試合終盤近くなっても落ちてくるのがほとんどなく、エースFW小林心の不在を感じさせない戦いぶりであった（小林は試合前に選手登録を抹消されていて、後日ベガルタ仙台への完全移籍が発表された）。

岐阜は栗飯原尚平に訪れた2度の絶好機をモノにできなかったのが非常に悔やまれる。とにかく消化不良感の残る試合選手交代で局面打開を図ることもできず。山田直輝や荒木大吾など戦列を離れている選手らの復帰が待たれるところ。そういえば、加入内定が発表されているウィリアム・トギはどうしたというのだ？ 6/1からの特別登録期間に選手登録するということだったのだが、未だに来日したとも練習に合流したともいう情報がクラブ側からないのだが……。早い時期の発表だったので、5月の半ばくらいには来日してチームに合流、そして6/1には登録即出場くらいに思っていたのだが。6/10までが特別登録期間になるのだが、果たして間に合うのか怪しいと言わざるを得ない……。(岐阜の誇り)

●試合の前々日に発生した珍事件。高知のエースでリーグ得点ランク1位の#11小林心が登録抹消。もちろん移籍だろうと判ってたけど、移籍が発表（6/2に仙台に移籍と発表）されてから、元チームの登録抹消だよね、普通は（苦笑）。さて、そんな絶対的エースが抜けて、これはウチにも勝利の可能性が……と思ったことを心から懺悔します（溜息）。走りまくり、一歩目が速い高知の選手たちに押し込められ、なかなか岐阜は前線でボールが収まらない。それでも、CKのデザインプレーで前半19分に#3野澤陸のヘッドで先制！しかし、高知は失点後も、ウチの両SBが上がると戻ってこない（これない）スペースを徹底的に狙ってくる。もう、J3の全チームに“岐阜の攻略法”が完全に露呈している状況だ。特に今回は、右サイドで#22文仁柱と#27横山智也に同時に人数をかけてプレスしてボールを奪い、何度も裏を狙ってくる。もちろん、攻撃の枚数を増やすのは得点のために重要かもしれないけど、攻撃が繋がらずにミスしてボールを奪われ、そのスペースを狙われてピンチを迎える方が可能性が高いなら、とりあえず守備を安定させることから始めるべきだと思うんですが……。んで、やっぱり、そのパターンで失点（溜息）。後半は若干修正されたように見えたと、岐阜も決定機は作れたけれど、相手の決定機の方が多かったような気がする。#11小林がいたら確実にやられてると僕は思いました。そして（#11小林の抜けた）高知の決定力不足に助けられ、何とか1-1で引き分け。チームが（それともクラブが？）理想とするサッカーと、現実に見せられるサッカーの落差に、なんだか僕の心が動かなくなってしまっているような、そんな嫌な感覚がしている。（ささたく）

●徒労感。この試合もDAZN観戦だったんだけど、試合終了直後に残ったのは、この3文字だけだった。高知は10点取ってるエースがベンチ外。おまけに、レギュラー？がもうひとりベンチ外。いわゆる『飛車角落ち』のメンバーじゃないか、これなら……と思ってた自分をぶん殴りたい。いや、実にきつちりとした、軸のブレないサッカーしてたわ。ホントに監督はアノ秋田豊サンなのか？選手交替しても、高知の強度は変わらなかったような気がする。素晴らしいね。

対するホーム・チーム。アイちゃんの日じゃなかった……では済まされない。選手替えても停滞したまま。「先行きが暗い」どころか、「先行きはない」に等しい。3月の時点で「4～5月は積み上げ、6月から反撃しよう。」なんて書いてたんだけど、コレはちょっと……。今月は順位の近いクラブとの対戦が多い。ここで持ち堪えられないと……。

とはいえ、あくまで、コレはDAZNで見てた自分だけの感想。自分以外のDAZNで見てた方には違うモノが映ったかもしれない。そして、長良川で観戦した方々には全然違うモノ、希望の光のようなモノが見えてたかもしれない。そう願わざるを得なかった。キツイね……。(ぐん)

●今季13試合で10ゴールと、まさに『噴いていた』小林心が（おそらく移籍のため）登録抹消され、高知の攻撃力は大きく削られることはほぼ確実。

実際、試合序盤は「小林心の不在」が如実に現れる展開となり、コーディネートされたセットプレーから岐阜が先制。やっぱり、ココロの存在は大きかった……と思ったのも、思えたのも、このあたりまで。読者の方は憶えているだろうか。2020年の第9節、岐阜1-1岩手。当時、岩手の監督だった秋田豊氏は岐阜に先制されつつ追いつくと、後半から（目視では10m近く）ラインを思いっきり上げる戦術に出て、さらに数分後に前線3人を同時に全とつかえして岐阜の攻撃すべてを鎮火するという荒業をやったのけた。そして、高知を率いているこの日は、キレキレの動きを見せる上月のいる右WBではなく、岐阜の守備の弱点と言われるトモヤとムン君のサイド、高知から見て左サイドを攻略点と定めて集中攻撃。ここを破られて綺麗なクロスからヘッドで同点弾。秋田氏は「岐阜はここをこうすれば破れる」と見切る『異能の持ち主』とみた（苦笑）。以後、一進一退。岐阜にも決定は2回くらいあったか。でも、試合全体の印象は「負けなくてよかった……」というものに。記しておきたいのは岐阜のサブ。機能していなかった（と断言しちゃうぞ）ウィリアムをベンチから下げ、代わりに入っただのがボランチの井川。さて、これをどう解釈したものか。残念ながら、ウィリアムに替われる攻撃手がベンチ外にいない、という解釈になる。内定している（と公式が発表している）トギ君の動向次第では、攻撃はとにかくケガ人の戻り頼みということに。うーん、残留出来るのかな。（吉田鑄造）

【第15節】鹿児島 3-2 岐阜

●ここ何試合かを見ても、“岐阜の弱点”は明らかだと僕は思う。『2バック』だからが主な原因だと思うけど、守備ブロックがスカスカで、CBの位置まで相手に押し込められないと、ボールが奪えない。そして、奪ったボールもボランチが回収して……じゃなくて、CBが相手FWのプレスを受けながら、ロングボールを供給するから、再びボールを奪われることが多い。どんどん体力と精神力を削られ、そのうち失点する……というやつだ。

一方で、「人数をかけなくちゃ得点できないから勝てない」という意見も、まあ判らなくはない。だけど、先制したんなら、しかも今のチーム状況なら、4バック全員が自分のレーンを埋めて、相手の攻撃を塞ぐ努力はした方が良いんじゃないの？なんでリードした後に、『ここどうぞ』とばかりに相手の攻撃ルートを空けてしまうの……（溜息）。んで、せっかく相手が優勢にもかかわらず、相手DFのディフレクションで2点目が入ったのに、再び修正も無く攻撃コースを空けますかね……（溜息）。今のチーム戦術では、両サイドは“攻撃をするため”というより“攻撃をさせるため”に上がっているようにしか見えなくて。まあ3点目は敵ながら見事なゴールでしたよ？それにしても、鹿児島に行って#92ンド力は成長したねえ……ウチに居た頃と大違いだ。使われ方が全然違うから活きるのかもしれないけど。これで19位にまで墜ちてしまった。翌日から鹿児島に降り注いだ大雨は、まるで僕ら岐阜サポの心を体現しているかのようだった。（ささたく）

●今節も現地参戦出来ず。DAZN では見てたけど、結果はもちろん、内容について言及するつもりはない。とにかく、現地組には心からの感謝と敬意を贈ります。お疲れ様でした。加えて、選手にも労いの言葉を掛けたい。現時点でやるだけのコトはやってくれました。アウェイ連戦が続きます。くれぐれも体調管理には気をつけてください。

ただ、フロントにはお願いがある。早急に声明を出して欲しい。試合後の挨拶で、監督が選手をかばっていたように見えた。ならば、監督は誰がかばうのか？これから大島さんで行くにせよ、そうでないにせよ、何らかの意見を表明する時期なんじゃないかな。現体制を継続するんなら「今はガマンの時です。その結果、一時は『J』ではなくなるかもしれない。だけど、捲土重来。そこから、天辺取ってみせます！」ぐらいの気概を見せてもらえないだろうか？

自分ごときがどう言おうと、体制をどうするのかはフロントの一存。だからこそ、その気持ちを示してほしい。今は、ただ、それだけです。よろしくお願いします。(ぐん、)

●深く重く絶望するしかなかった。勝てたかもしれない試合だけど、勝てる試合じゃなかった。そりゃ先制したのも、同点にされてから勝ち越したのも岐阜だ。でも終わってみれば、まるで勸善懲惡パッケージの時代劇のようだった。

岐阜の選手は精一杯やったんじゃないか。精一杯で、アレ。パスにしる試合の組み立てにしる、とにかく雑。岐阜も鹿児島もラック頼りではあったけれど、鹿児島はラックが近くに来た時にスイッチを入れてそのラックを拾いに行く準備が出来ていた。一方の岐阜は、ラックが自分の眼の前に転がってこないと活かせない。

岐阜の得点はセットプレーとシュートのディフレクション。それらが悪いってわけじゃないけど、鹿児島は前半のラストプレーで一度追いつき、再びリードされたところで相馬黄門様がこう言うのだ。「チャーリー、河村、懲らしめてやりなさい」。そして岐阜はパッケージの悪役を演じきるべく最後に悪あがきのごとき攻勢を強めるものの、正義は最後まで持ちこたえるのでありました。かくして鹿児島の平和は保たれた、めでたしめでたし。

いまの岐阜は、攻撃に関しては技術不足。パスを繋げる、攻撃を展開する技術がない。守備に関しては戦術の未熟。中盤に網がない（攻撃に技術がないので枚数を割くしか打開が出来ないことも一因だが）ので、相手の攻撃の「狩りどころ」がCBになってしまう。カイケンやノザリクへの負荷のかかりっぷりは「いじめですか？」と思うこともあるくらい。でも、監督は4バックを捨てない。諦めない。こんな惨状でもいまだに3MFが流動的にあだこうだの夢をぼんやりを視ているのかもしれない。そして、そんなロマン派の監督ばかり呼んでしまうのは、フロントの問題だ。リアリストの監督を招いた他のチームは、岐阜よりずっと少ない人件費で、岐阜よりずっといい戦績を残しているのに。

もういいよ、自力での残留は諦めよう。この体制のままではおそらく自力残留は無理で、そしておそらく体制はこのままだ。JFLで権利なしor権利はあるけど動員的に届かずのチームが上位を占有すればよいのだ。結果オーライ、今季はこれで行きましょう。(吉田 Casting)

【天皇杯】湘南 2-0 岐阜

●平塚駅前のチェーン店のビジネスホテルのチェックイン開始時刻に合わせて岐阜を出発し名古屋からは新幹線(こたま自由席)で小田原へ。在来線に乗り換えて平塚へ到着したのは午後2時40分頃であった。

ホテルに到着すると既に私以外の岐阜サポが2人ほどいらっしゃっていて軽く驚愕。というのも平日開催だし天皇杯なので岐阜サポはトータルで100人も来ないだろうなあと思っていたからである。スタジアム到着前に岐阜サポを見掛ける事は無いであろうという予想は大ハズレ。今日は盛り上がる

試合になりそうな兆しを感じながらチェックイン後ひと休みしてスタジアムへ行くバスに乗る。天皇杯当日はシャトルバスの運行がないので路線バスである。高知以外の全スタジアムを制覇しているであろう知人女史のアドバイスに従い「都まんじゅう」の店舗前のバス停から乗車。都まんじゅうは定休日だったのが甚だ残念であった。更に別の岐阜サポ数名と共にバスに揺られてBMWスタジアムから改名していたレモンガススタジアムに到着。岐阜サポは100人をゆうに超える数であった。顔見知りのサポ仲間と3バックの兆しを感じるスタメンについて四方山話をしているうちにキックオフの時間を迎え緊張が漂う。

岐阜は3バックであった。前半20分頃には自分に笑みがほころんでいるのを自覚した。このスタイルを今から続ければ残留は確実に出来る事を確信したからだ。寺坂・甲斐・平瀬の3バックはとても素晴らしかった。特に寺坂選手には驚愕した。こんなに素晴らしい選手であったことに。左利きであるので3バックの左側に固定されるのではないかという予想が立つ。甲斐選手の良さは改めて説明する必要もないので割愛するが新加入の平瀬選手は安定感が素晴らしかった。久しぶりに岐阜の強化部を褒めざるを得ないのであった。前半はスコアレス。サポ仲間との会話も弾む。後半の2失点は本気になった湘南にやられました。特に先制点を奪われたシーンは相手の速さに岐阜の左のウイングが戻りきれてなかったのが原因である。これは反省点として今後に生かしてもらいたいですね。2失点目はセットプレーからのゴチャゴチャからの失点なのである意味確率的失点である。

試合は2-0で敗戦。しかし大きな光が見えた試合であった。昨年は残り8試合で3バックを行い5勝2分1敗。そのペースならば残り23試合あるので今年の勝ち点は63という予測が立つのだが昨年の終盤のようなチームにまでここから成熟するのをとてもとても期待しながらスタジアムを後にしたのでありました。

ところで後半途中出場なのに全力で走れないフォワードならばフォワードを止めるべきであると感じざるを得ない選手がいたことだけは苦言を呈したい。(ニノチヒ)

●こんなチーム状況で、J1・湘南を相手にしたら惨殺されるよなあ……と思っていたんだけど。えっ、このスタメンは……もしや3バック(5バック)では？昨季の9月末に導入され、シーズン終盤の大活躍の原動力(と僕は思っている要因)のひとつ。「久しぶりだなあ、ずっと待ってたぜ！」と心の中で叫んだのは、僕だけでしょうか(苦笑)。そして、その淡い期待が現実となる、デジャヴのような感覚。もちろん湘南も、日曜日にルヴァン杯を戦ってることもあって、ほぼターンオーバー。だけど、岐阜のボールの奪い処がDFラインより前になり、ボールが前線で収まり、セカンドボールも拾える。選手たちはトライアングルを形成してパスで相手の守備を崩し、得点の匂いがする。こんな風にワクワクする岐阜のサッカー観たのって、何ヶ月ぶりかしら(苦笑)。ただ、やはり相手はカテゴリーが2つ上のチーム。後半に入ると修正してきて、徐々に試合を優位に運ぶ。そして後半17分に、湘南と岐阜が同時に2枚替えすると、その直後に立て続けに2点を奪われてしまう。交替する選手層の違いを、まざまざと見せつけられる格好になった。その後は、ペースダウンした湘南に時間を使われて、0-2で敗戦。負けて悔しいけれど、まあ納得できる試合だったと思いました。なお、岐阜市出身の#50 藤井智也選手は出場し、各務原市出身の#5 鈴木淳之介選手は日本代表に初選出されたのでベンチ外。つい、期待しちゃいますね。(ささたく)

【第16節】長野1-2 岐阜

●天皇杯2回戦の後に「湘南には3バックが合うと思ったので」と大島監督が言っていたので、ちょっと不安になりながらスタメンは……よかった、3バックだわ（苦笑）。そして前半2分には、セットプレーから相手G前の混戦を#4 甲斐健太郎が押し込んで、いきなり先制点！その後にも#10 北龍磨の惜しいミドルがあったと思ったら、次にはGK#31 セランテスのビッグセーブ。相手が違うから仕方ないんだけど、やはりシステムを変更したら、すぐに上手くいく試合ばかりではないのよね。それと、やっぱり両WBが（SBの時と同じように）中に絞り込んで空けたスペースを狙われ、そこから失点。後ろから走りこんだ相手に付き切れていないのも要因だった。ただし、この試合はそこで終わらなかった。前半34分、#55 外山凌のアーリークロスを#11 佐々木快がニアに走り込みながらヘッドで逸らし、相手Gネット隅を揺らす貴重な2点目！開幕戦のゴールといい、やっぱり#11 佐々木って、ワンタッチゴラーなんだと再認識。でも、この2点だけというのは、いくらなんでも寂しい数字。もっともっと、増やしてくださいな（笑）。このまま後半も……と思ったけれど、そう甘くは無いのがサッカー。選手交替の度に、劣勢を強めてゆく岐阜。考えてみたら、ウチは水曜に天皇杯2回戦を戦ってるけれど、長野は県代表決定戦で終わってるんだった。走る力の違いもあってか、防戦一方になる岐阜。それでも耐え続け、愚直にボールを跳ね返しつつけ…ようやくタイムアップ。後半は反省点が山盛だけど、リーグ戦4試合ぶりの、そしてアウェイでは今季初となる勝利。ようやく、手にすることができた。今後、チームがどういう戦術を選択するのか不明だけど、理想ではなく現実をみた選択をして欲しいと、僕は心から願っています。（ささたく）

●ボクは4バックが好きだ。なんでもかはわからない。だが、今のウチのメンツを見てると、この試合のスタメンだけでなく、3バックで中を固めたら、かなりいけるんじゃないか？という気がした。前線も、3人の距離が近い方がササカイは活きるような気がする。カレを上手に使ってあげたい。そうじゃないともったいない。そんなコトを思ったね。そして、そのササカイが今季初ゴールと同じような流れで決勝点。ひとりハイパーチャントが楽しそうでよかった。DAZNの見逃し配信を見た直後は「後半はチンチンにされたなあ。セランテスやバーとかポストとかに救われた薄氷を踏むような勝利だよ」と思ったんだけど、水曜夜の天皇杯から4人変更しただけ（そのうちの1人はGKという状況。しかも、アウェイ3連戦の3戦め）だったんで、コンディショ的にキツかったんだろうな、と。そんな中で、よくぞ、結果を出してくれました。願わくば、次節以降もこのシステムを変えずにチャレンジしてほしい。それにしても、終了直後のスタッツと公式発表のスタッツとの被シュート数の差よ。こんなに違うモノなのかね？

とにかく、大事なものは結果。そして、今季のアウェイ初勝利、おめでとう！選手&スタッフ、そして、現地組には感謝しかない。でも、連勝しないとね。次は上位だけど頼んだよ！（ぐん、）

●DAZN 観戦なんで現地組の印象とは異なるかもしれないけど、天皇杯・湘南戦から続けての3バックは、長野も調子がいいわけではない（この試合まで、1試合あたりシュート数がリーグ・ワーストだったらしい）状況を考えたとしても、選手は動きやすそうに見えた。相手のシュート数は多かったけれど、某アニメの赤い彗星さんのセリフを借りれば「シュートなど、入らなければどうということはない！」ということになるか……実際は1本入れられたし、終盤は結構危ない場面も多かったけれど（苦笑）。開幕戦以来のササカイのゴールは、開幕戦で観たようなクロスと弾道。本人は前を狙うのが好きみたいだけど、実はこのシュートの打ち方が自家薬籠中のものかもしれない。

さて、天皇杯・湘南戦ではJ1相手に敗れたものの手応えを掴んでの3バック、それを継続して結果が出た。湘南戦後の囲み取材で「我々は変化が必要な時期だとは思っています」と監督は言っているので、変化が結果につながったと思ってくれるだろうか。いやいやまだ全然安心できない。一晩寝て起きたら監督は「違う、『ぼくのかんがえたさいきょうのスタイル』はこれじゃない」と思い出してしまい、また4バックで3MFが流動的に絡んでのあだこうだのサッカーに戻るかもしれない。あるいは、岐阜に戻ったら社長から呼び出されて「俺が視たいサッカーはこんなじゃねえんだ、3MFが流動的にあだこうだなんだよ、次は元に戻せ！」とお叱りを受けてしまうかもしれない。まあ、現時点ではそれくらいの信用度です。要・経過観察ですね。（吉田铸造）